

JSAI 日本情報考古学会会報 No.12

2002 (平成 14) 年 7 月

BULLETIN OF JAPAN SOCIETY FOR ARCHAEOLOGICAL INFORMATION
No.12 July 2002

目次

日本情報考古学会第14回大会 の静岡開催のご案内	1
日本情報考古学会第13回大会報告	2
「情報考古学」の発送と論文募集	4
電気情報通信学会誌に掲載された 「情報考古学」の特集について	4
会費納入のお願い	4
会報への広告掲載について	4

日時：平成 14 年 9 月 28 日(土), 29 日(日)
28 日(土)一般講演, 特別講演
夕刻懇親会
29 日(日)一般講演, 特別講演

会場：静岡大学 浜松校舎

<特別講演・見学会>

現在、プログラムについて検討を行っているところですが、大会一日目及び二日目の特別講演は、元浜松市立博物館長 向坂剛二郎 先生と静岡大学 教授 佐藤洋一郎 先生を予定しております。演題等詳しくは、学会のホームページをご覧ください。

<一般講演>

第 14 回大会での講演をご希望の方は、

- ・ 講演題目
- ・ 発表者
- ・ 所属
- ・ 連絡先
(住所・電話・ファックス・電子メール)
- ・ 発表に使用する機器等

を 電子メール、ファックス、郵送のいずれかで以下の申し込み先までお申し込み下さい。

申込先：

〒106-8569 東京都港区南麻布 4 - 6 - 7
統計数理研究所 村上研究室内
日本情報考古学会事務局
Tel./Fax. : 03-5421-8766
E-mail : murakami@ism.ac.jp

申込〆切：平成 14 年 8 月 10 日(土)

日本情報考古学会第 14 回大会 の静岡開催のご案内

日本情報考古学会第 14 回大会を静岡で開催することとなりました。当地では地理情報システム(GIS)を核とした、考古学・遺跡データの収集・DB化・分析が活発に行われており、多くの会員にとって良い刺激となる大会となることが期待されます。

昨年に引き続き、地方での開催ということもあり、いろいろご不便をおかけするかと思いますが、多くの学会員の皆様をはじめ、情報考古学にご関心とご理解をお持ちの皆様方もふるって御参加くださいますよう、お願い申し上げます。

<大会日程及び講演募集>

さて、本学会の第 14 回大会のが下記の日程にて開催されますので、御案内致します。

なお講演申し込みに関する詳細については、下記の「一般講演について」を参照して下さい。

<一般講演について>

1) 発表内容

遺物・遺構形状の計測技術、あるいはそれらのデータの計量分析、理化学的データの収集とその解析手法、考古学的事象をめぐるコンピュータ・シミュレーション、インターネットなど新たな通信基盤を介しての研究者間のデータ共有や共同研究をめぐる技術、多様な考古学的情報に関わる幅広い分野の学際的研究を募ります。

2) 発表時間

質疑応答を含んで、発表1件当たり30分を予定しています。(発表件数などによって変更することがありますのでご了承ください。)

3) 予稿集原稿提出

予稿集原稿は6枚程度です。原稿作成の詳細につきましては申し込みがあり次第、事務局の方からご連絡致します。また、予稿原稿には600字程度の要旨をつけて下さい。この要旨は、学会誌である『情報考古学』に大会発表報告として掲載されますので、よろしく願いいたします。

予稿集原稿は、平成14年8月31日(土)学会事務局必着となっております。

4) 予稿集の編集について

ご送付いただいた原稿を直接写真製版いたしますので、筆者による校正の機会はありません。完全原稿を御提出下さい。なお、提出された予稿の原稿は、原則として返却いたしません。予め各自でコピーを保存して下さい。

5) 発表資格

発表者に一人以上の会員が含まれることが応募の条件となります。

6) 発表機材

OHP プロジェクタと液晶プロジェクタが利用できる見込みです。その他の機材が必要な方は、事務局に御相談ください

日本情報考古学会第13回大会報告

日本情報考古学会第13回大会は、平成14年3月16日(土)、17日(日)の二日間、奈良先端科学技術大学院大学ミレニアムホールにて開催されました。大会において講演された内容を以下に示します。

第一日目：2002年3月16日(土)

特別講演1: 植木武(共立女子大学)

『国家の発生』



研究発表1: 新麗(奈良先端科学技術大学院大学/独立行政法人通信総合研究所), 今井正和(鳥取環境大学), 千原國宏(奈良先端科学技術大学院大学), 堅田直(帝塚山大学)

『考古遺跡写真ライブラリプロトタイプの改良』

研究発表2: 時津裕子(日本学術振興会・九州大学), 中園聡(鹿児島国際大学)

『考古学者の認知技能に関する研究(2)描画法を用いて』

研究発表3: 大西智和(鹿児島女子短期大学)

『地下式横穴墓群の検討』

研究発表4: 金谷一朗, 岡根真治, 安川慶, 吉川武志, 吉本恵子, 千原國宏(奈良先端科学技術大学院大学)

『文化財のデジタルアーカイブのための3次元形状計測ツール』

懇親会



第二日目 :2002年3月17日(日)

研究発表 5: 金谷一朗, 千原國宏(奈良先端科学技術大学院大学)

『コンピュータグラフィックスのための新しい数学』

研究発表 6: 佐々田友規(東京都港区立港郷土資料館), 村上征勝(統計数理研究所), 吉田裕之(三菱総合研究所), 金子愛(鹿児島県屋久町教育委員会), 秦広之(国学院大学)

『地理情報システムを用いた生業形態・集落規模と遺跡立地空間属性の関連性の検討』

研究発表 7: 多井堅一郎(大阪大学), 塚本敏夫(元興寺文化財研究所), 佐藤宏介(大阪大学)

『銅鐸を対象とする形状計測データの画像処理』

昼食

特別講演 2: 池内克史(東京大学)

『文化財のデジタルアーカイブ』



研究発表 8: 西村淳(函館大学)

『定型化前方後円墳と箸墓古墳築造前後の墳丘暮』

研究発表 9: 鶴見英成(東京大学), 宮野元太郎(ボストン建築センター)

『ペルー, クントウル・ワシ遺跡石造建築のデジタル測量』

研究発表 10: 清水宣義(金沢学院大学)

『考古学における Remote sensing』

意見交換, 閉会挨拶



学会賞

大会の第一目には、学会賞の表彰が行われました。本年度の受賞者は以下の通りです。残念ながら、谷口、三宮会員が仕事の関係で欠席でした。

学会賞

横見 博之 会員

論文賞

谷口 陽子 会員

対象論文 「東関東地域の縄文土器の混和剤について -数量化3類を用いたテクスチャリアルナリシスの試み-」(『情報考古学 Vol. 5 No.2』)

優秀賞

三宮 健 会員

対象発表 : 「発掘調査段階のデータ構造を考慮したデータベースシステムの実装」(第9回大会)

「トータルステーションと考古学専用ソフトウェアを用いた遺構実測支援システムについて着装コンピュータを用いた発掘支援システム」(第11回大会)

大会の様子は、ホームページも掲載してあります。
<http://saikaku.ism.ac.jp/jsai/jsai13/ptaikai13-1.htm>

(事務局)

「情報考古学」の発送と論文募集

本学会の研究論文誌「情報考古学」Vol. 7, No. 2は、この3月に発行し、第13回大会にて配布いたしました。第13回大会に参加できなかった方には郵送いたしました。

また、「情報考古学」の次号 Vol. 8, No.1は、次回大会時に刊行・配布予定です。多くの会員の方からの投稿を期待しております。

第13回大会に参加できなかった方で、「情報考古学」Vol. 7, No.2が、まだお手元に届いていない場合は事務局までご連絡ください。

〒101 - 8433

東京都千代田区一ツ橋2 - 2 - 1

共立女子短期大学生生活科学科

植木武（会誌編集委員会副委員長）

Tel : 03-3237-2524

Fax : 03-3237-2692

電気情報通信学会誌に掲載された 「情報考古学」の特集について

電気情報通信学会から、本学会に情報考古学を特集したいとの申し入れのありましたことを会報10号で報告いたしました。この特集が、平成14年3月発行の『電気情報通信学会誌 第85巻 第3号』に小特集「いにしえの世界を探る科学技術」として掲載され、発行されました。

『電気情報通信学会誌 第85巻 第3号』電気情報通信学会 平成14年3月 pp145-196

小特集「いにしえの世界を探る科学技術

小特集発行に当たって 後藤敏行

1. 総論—21世紀を迎えた情報考古学 堅田 直

2. 年代・産地・個人推定

2-1 様々な年代推定法—その原理と分類 .. 松浦秀治

2-2 鉛同位体比による青銅器の鉛産地推定をめぐって

..... 新井 宏

2-3 著者を探る古文書の計量分析 村上征勝

3. 遺跡遺物の計測・復元・データベース化

3-1 コンピュータを利用した遺跡・文化資産の復元

..... 門林理恵子 金谷一朗 千原國宏

3-2 遺跡・遺構の三次元計測と認識

..... 佐藤宏介 塚本敏夫

3-3 考古学データベースの現状と課題

..... 宝珍輝尚 都司達夫

3-4 地理情報システムによる遺跡データベースの構築

..... 横山隆三 千葉 史

4. シミュレーション

- 4-1シミュレーションによる遺跡分布推定・及川昭文
- 4-2 人口考古学におけるシステムダイナミクス手法の応用 原 俊彦
- 5. まとめ
- 5-1 発掘現場におけるリアルタイムアーカイビングへの期待 三宮 健 植村俊亮
- 5-2 コンピュータに支えられる考古学の課題 植木 武

会費納入のお願い

各位におかれましては、学会運営をスムーズに行うため、会費の納入にご協力をお願い致します。また会員数の増加も緊急の課題です。会員数倍増に向けご協力をお願い致します。

会報への広告掲載について

日本情報考古学会報に、今後も継続的に広告を掲載し、会報の郵送費等に当てることができればと考えております。会員の皆様もお心当たりがございましたら、ご紹介下さい。

日本情報考古学会会報 No.12

発行 日本情報考古学会

2002年7月26日

〒106-8569 東京都港区南麻布4 - 6 - 7

統計数理研究所 村上研究室内

日本情報考古学会事務局

Tel./Fax. : 03-5421-8766

E-mail : murakami@ism.ac.jp